

一般質問項目一覧表

3月定例会の一般質問は11日および12日に行われました。紙面の都合により、要約してお知らせします。

- 南雲 吉雄議員14 ページ
 - 1. 雪害対策について
 - 2. グループタクシーの実証実験について
 - 3. 駒寄スマートIC周辺整備について
- 馬場 周二議員15 ページ
 - 1. 上野原南北を結ぶ道路計画は
 - 2. 今後のまちづくりと展望
 - 3. 再生可能エネルギーとその活用
 - 4. 地域コミュニティーを問う
- 齋木 輝彦議員16 ページ
 - 1. スポーツ振興と各種施設について
 - 2. 雪害対策
- 神宮 隆議員17 ページ
 - 1. 消費税の引き上げなどに対する影響と対応
 - 2. まちの雪害対策
 - 3. 防犯灯のLED化
 - 4. 一般廃棄物（ゴミ）処理問題
 - 5. 前橋・渋川シティマラソン
- 小池 春雄議員18 ページ
 - 1. 雪害対策
 - 2. 災害時要支援計画
 - 3. 健康保険短期証の改善
 - 4. ゴミ処理対策
- 飯島 衛議員19 ページ
 - 1. まちの災害対策の課題と今後は
 - 2. 耕作放棄地などの樹木の管理の現状は
 - 3. 文化センターおよび図書館の利用について
 - 4. ひとり暮らし老人緊急通報システムについて
- 金谷 重男議員20 ページ
 - 1. 2.14大雪は、施設園芸農家に与えた影響は大きい、まちの対応と農業委員会長の見解は
 - 2. インター大型車乗り入れをまちの将来にどう活かすか
 - 3. 3.11以降、再生可能エネルギーに対する期待は高まっているが、吉岡エネルギーパークを環境教育や観光に有効活用できないか
 - 4. 商工行政に関して、商工会との連携は
 - 5. 自治会に町行政が頼りすぎているか
- 岩崎 信幸議員21 ページ
 - 1. 公共施設（建築物）の老朽化について
 - 2. 男女共同参画の推進は
 - 3. 八幡山公園の整備及び拡張計画について
 - 4. 観光立国を目指してまちの政策を問う

議員
8人
町政を問う



南雲吉雄 議員

2月14日の大雪の被害状況は

答 被害総額は、およそ2・7億円

問 2月14日の大雪の被害状況は。

答 町長 歴史的な豪雪で、農業においては施設倒壊など甚大な被害を受けた。被害総額は、およそ2・7億円ではないか。早急に国と県の支援メニューを活用して対応したい。

答

産業建設課長 野菜の被害面積は10・3畝、畜産施設29件、パイプハウス161件、ガラスハウス17件の被害が、確認された。

問

大雪の被害は、後継者のいる農家に大きかったが、まちの指導は。

答

産業建設課長 国と県の補助も具体策ができた。国、県の支援メニューを活用しながら、JAと連携し誠意を持って対応したい。

問

溝祭地区・上野原地区で実施したグループタクシーの実証実験の成果は。

答

総務政策課長 70歳以上と運転免許を所持していない町民を対象に550人を想定した。利用券申請は56人で、思ったより方を検討したい。

答

り少なかった。広報、ホームページ、自治会の回覧など周知と協力をお願いした。今後のマスタープランの策定資料としたい。

問

JR群馬総社駅西口整備の話もあるが、仮に開設されるようであれば、デマンドバスの運行も必要と考えるが。

答

町長 路線バスと合わせて、公共交通マスタープラン策定の中で、地域にあった公共交通のあり方を検討したい。

駒寄IC大型車乗り入れ改修は

国交省、ネクスコに計画書を提出した

問

駒寄IC大型車乗り入れ改修は、国に陳情が行われたと聞くが。

答

町長 話が持ち上がり、およそ20数年が経過した。2月24日に地区

答

町長 国土交通省、ネクスコ東日本に変更実施計画書を提出した。

問

今後のスマートICの整備はどのように進められるのか。

答

町長 まちの将来構想を考えて、総合的に見直した中で、計画的なまちづくりを進めたい。

問

周辺整備としてパーキング西の道路整備計画が遅れているとの指摘があったが、計画をお持ちなのか。

答

町長 まちの将来構想を考えて、総合的に見直した中で、計画的なまちづくりを進めたい。



議会による雪害調査



駒寄スマートIC



馬場周二 議員

上野原南北を結ぶ道路の計画は

答 頭にしっかりと入れ考えていきたい

未来につなげるまちづくりの構想は

道というものが吉岡町発展の手段となる

問 上野原南北を結ぶ、道路計画のその後は、町長 南北が分断され、住民に不便を強いていることは、承知しており申し訳なく思っています。

答 道路計画については、国交省など、関係機関と機会があるごとに、話をするなど頭にしっかりと入れ考えている。渋川土木と相談しながら進めたい。



待たれる道路の延伸 上野原南北線

問 未来のまちづくりをどのように考えるか。

答 町長 まち全体を考える時期がきた。道というものが、吉岡発展の手段と考えている。ICを核とし、インター周辺や産業道路・高渋バイパス周辺・上野田・上野原地区の開発が重点となり発展につながると考える。アクセス向上による、物流の改善や産業集積に期待し、計画的な誘導と、有効な土地利用を考えたい。

問 新エネルギーに対する新たな導入と、活用は。

答 町長 再生可能エネルギー・ビジョンとして、太陽光・風力・小水力・地中熱の4つを選定している。一般家庭への導入は、太陽光と地中熱が対象となる。地中熱は、認知度が低く一般家庭への導入促進の段階ではない。

問 小倉工業団地の拡張の考えは。

答 町長 状況を見ながら慎重に対応する。

問 太陽光発電の補助額と件数は。

答 町民生活課長 県とまちを足した補助金の限度額は16万円になる。また利用件数は64件である。

問 地域のコミュニティに対する現状は。

答 町長 おおむね順調と受け止めている。

問 町民生活課長 特色・特性を生かした地域の自主性が順調に推移している。

答 新たな地域支援事業の考えは。

問 都市化傾向で人との関わりも希薄になっている。自治会の意見や要望を聞きながら、コミュニティづくりを実施する。

答 町長 自治会振興助成金の中で、支援活動をしていただければありがたい。



上野原地区からの前橋方面